

開催報告

# 福島県おいしい農産物サポーター養成出前講座

## ふくしまの今を知り、おいしさを伝えよう!

日時：2014年11月10日（月）13：30～16：30

会場：東京都生協連会館3階ホール

講師：小山 良太 氏

主催：地産地消ふくしまネット／東京都生活協同組合連合会

協賛：東京消費者団体連絡センター

参加者：64名



もともと自然と農業の恵が大変豊かな福島に2011年3月、突如ふりかかった災害・・・

生産者も消費者も被害者となってしまった原発事故から「福島の食と農の再生」への取り組みが今も続けられています。

私たち消費者も福島再生へ向けてできることとして、福島の現状を理解することや消費者が不正確な情報や思い込みに惑わされることなく、自らの判断で正しく食品の選択をすることができるよう、また、私たち自らが福島県の良さ・おいしさを伝えていきたいと思います。福島県おいしい農産物サポーター養成出前講座を開催しました。

◆◆◆スケジュール◆◆◆

- 13：30 開会
- 13：35 講演
- 15：10 試食&販売
- 15：30 交流（ワークショップ）
- 16：30 閉会



司会の奥山さん  
（東都生協）



### 《講演》福島の食と農の特性と原子力災害からの再生

講師：小山 良太 氏

（福島大学経済経営学類教授・うつくしまふくしま未来支援センター副センター長）

2011年3月  
東日本大震災から  
3年半・・・

協同組合どうし  
の連携による  
復興

地震・津波による被害に加え、原子力災害に見舞われた福島県は、「福島の食と農の再生」のためさまざまな取り組みを展開してきた。

生協や農協他さまざまな協同組合間の協同活動を通して、福島のごども保養プロジェクトや土壌スクリーニング・プロジェクト、地産地消における安全性確保、影膳調査、損害調査など行った。

#### 土壌スクリーニング・プロジェクト

放射能汚染は均一分布ではない。2kmメッシュの中でみても高い所低い所とが分散している。現状を把握しないと対策がとれない。そこで、水田と果樹園の全圃場の汚染度を計測してマップ化する「土壌スクリーニング・プロジェクト」を立ち上げた。測定ボランティアには全国の生協職員も参加した。測定結果は基礎的なデータとなり、全体の傾向・吸収抑制の対策が見えてきた。こうした結果を受け、JAと福島大学が連携し、圃場ごと・生産者ごとの対策プログラムを検討した。

検査体制は  
事故直後と現在と  
では変わった  
のです!!

原発事故が起きた2011年度は、検査体制や吸収抑制対策も十分に確立されておらず、わずかなサンプリング数によるモニタリング調査のみで安全宣言を出した。その後、基準値を超える農産物が流通していることがわかり信頼をなくしてしまい、品質に絶対の自信のあった福島の農産物が売れなくなってしまった。しかし、

2年目以降は農産物や食品の汚染対策は改善し、米の「全量全袋検査」に代表されるように検査体制は充実し相当高度になった。

米の  
全量全袋検査は  
“世界初”

#### 対策は、 国の責任で行うべき

もし、福島以外の県で汚染度の高い農産物が検出されれば、原発事故現場に近い福島はもっと危ないとみなされる。風によって県を超えて汚染が広がった状況下では、行政単位で（福島だけ）対策をしても意味がない。放射能汚染マップに沿って対策をする必要があり、放射能・原発の問題は、全国でやっていかなければ次の風評につながる。



## 4段階の食品安全検査

- 1 農地：全農地の放射性物質分布マップ作成  
実態に応じた対応を明確に！
- 2 植物体：科学的な分析  
放射性物質の吸収を抑制！
- 3 農産物：食品モニタリング検査  
関係機関の連携で精度向上！
- 4 食品：消費地検査  
直売所、公民館、小学校など  
自分の目で確かめられる！

### 体系的な検査体制 生産対策に結びつくようなデータ収集

## 試食&販売

地産地消ふくしまネットの千葉さんより、福島県自慢の加工品と果物の説明をしていただいた後、試食と販売を行いました。



試験操業で採れた相馬のしらすや燻製の卵など、用意した商品は完売しました。

まさに「フルーツ王国」といえる福島のたくさんの果物を試食しました。



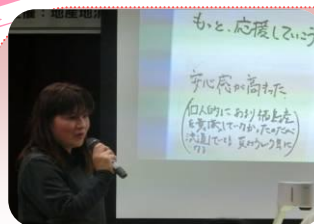
## 交流

福島の取り組みを理解し、事実を正しく伝えられるよう、参加者どうし意見を出し合い交流した。



### <テーマ②>

この講座に参加する前と後では、福島県産の食品に対するイメージは変わりましたか？



<テーマ①> 福島の取り組みを理解してもらうには、どんなことが必要ですか？

### 主な意見

- ・生協で試食会や学習会を開催。
- ・福島に行って生産者と交流。
- ・データに基づいた正しい理解の共有。
- ・放射能検査が徹底していることをアピール。

### 主な意見

- ・検査に多くの時間と労力をかけ安全なものを出荷していることがわかった。
- ・福島産、今は安全に食べられるし、子どもにも食べさせられる。
- ・むやみに怖がる必要がないことがよくわかった。
- ・応援する気持ちがアップした。

### ◆アンケートより抜粋 ◆ (アンケート提出46枚)

- ・どれくらい安全かということ、データでわかりやすく示していただいた。
- ・福島県産の農産物はきちんと検査されていること安全であること、そしておいしいことを伝えていきたい。
- ・福島県は食の宝庫だったのだと再認識した。
- ・交流することでより安心できることが実感できた
- ・検査の実態を知り、検査が一番充実している福島の食が最も安全!!と思った。
- ・継続的なデータの蓄積、事実を淡々と伝えること、受け止めることの大切さを感じた。



講師の福島大学教授 小山良太さんのお話は、データに基づいた説得力のあるお話でした。土壌スクリーニング・プロジェクトや放射能飛散、農産物検査など福島における放射性物質低減の取り組みを知り、また福島県産の加工品や果物のおいしさを味わい、より一層理解が深まる講座となりました。



地産地消ふくしまネットとは…？ 福島県生協連、JA福島中央会、福島県漁連、福島県森連、福島大学協同組合ネットワーク研究所らが筆頭会員の福島独自の協議会。生産者・消費者・研究者らが集まり、持続可能な地域社会を協同組合によって作ろうという目的で発足。

開催しましょう…!!

## 【福島県おいしい農産物サポーター養成出前講座事業】へのご協力をお願い

標記事業は、食と放射能に関して、消費者が不正確な思い込みに惑わされることなく自らの判断で正しく食品の選択ができるよう、福島における放射性物質低減の取り組みや放射性物質の状況を講師が出向いて説明します。講師との意見交換と福島県産食材の試食を兼ねたミニ交流会をパッケージ化し開催します。試食品はJA新ふくしまより提供、主催者負担は、講師料と会場費（その他、保育料や広報費）等で開催できます。

お問い合わせ：東京都生協連（担当：那須） TEL 03-6844-3563